

令和7年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立陽南小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和7年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和7年4月17日(木)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問調査）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問調査）

4 本校の実施状況

| | | | | | | |
|------|----|-----|----|-----|----|-----|
| 第4学年 | 国語 | 46人 | 算数 | 46人 | 理科 | 46人 |
|------|----|-----|----|-----|----|-----|

| | | | | | | |
|------|----|-----|----|-----|----|-----|
| 第5学年 | 国語 | 63人 | 算数 | 63人 | 理科 | 63人 |
|------|----|-----|----|-----|----|-----|

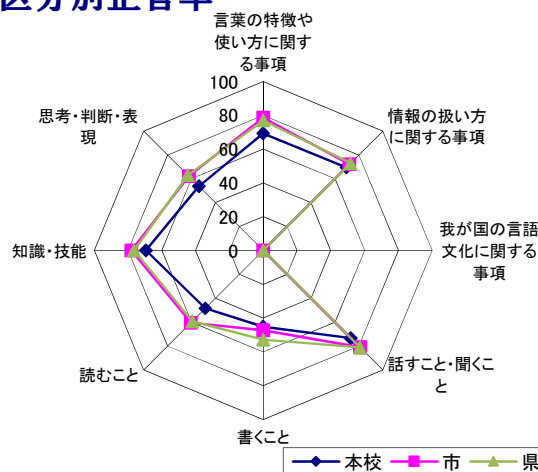
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、
「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立陽南小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

| 分類 | 区分 | 本年度 | | |
|-----|-----------------|------|------|------|
| | | 本校 | 市 | 県 |
| 領域等 | 言葉の特徴や使い方に関する事項 | 69.3 | 78.6 | 76.9 |
| | 情報の扱い方に関する事項 | 69.6 | 72.2 | 73.1 |
| | 我が国の言語文化に関する事項 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| | 話すこと・聞くこと | 73.4 | 81.0 | 81.1 |
| | 書くこと | 45.1 | 47.2 | 52.8 |
| | 読むこと | 48.4 | 60.5 | 59.3 |
| 観点 | 知識・技能 | 69.4 | 78.0 | 76.5 |
| | 思考・判断・表現 | 53.8 | 62.3 | 63.1 |



★指導の工夫と改善

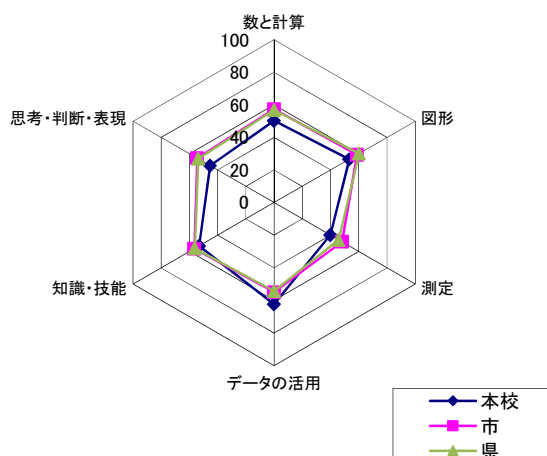
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

| 分類・区分 | 本年度の状況 | 今後の指導の重点 |
|-----------------|--|---|
| 言葉の特徴や使い方に関する事項 | <p>平均正答率は、市の平均と比べて低い。</p> <p>●漢字の読み書きや主語述語、ローマ字の読みに関する設問では、市の平均正答率より低く、課題が見られる。</p> | <p>・漢字の読み書きは、基礎・基本となるものなので、朝の学習や家庭学習において、繰り返し練習させるとともに、ミニテストなどでこまめに定着状況を確認したり、学期末や学年末では、更なる定着を図ったりする。</p> <p>・ローマ字の読みについては、国語科だけではなく、外国語学習や1人1台端末を活用して日常的に慣れ親しむことができるようにする。</p> |
| 情報の扱い方に関する事項 | <p>平均正答率は、市の平均と比べて低い。</p> <p>●国語辞典の使い方に関する設問では、市の平均正答率より低く、課題が見られる。</p> | <p>・国語辞典の使い方の学習では、基本的な使い方を丁寧に確認しながらおさえるとともに、授業中に使う機会を設けて活用させることで、国語辞典の使用の日常化を図る。</p> |
| 話すこと・聞くこと | <p>平均正答率は、市の平均と比べて低い。</p> <p>●司会者の話し方の工夫を捉える設問、司会者の役割を捉える設問や、相手に伝わるように、自分の考えを挙げながら話す設問では、市の平均正答率より低い。</p> | <p>・今後も自分の考えを整理して話す活動を積極的に取り入れたり、理由を挙げながら相手に伝えるように話す学習活動も取り入れたりしていく。</p> <p>・話し合いをする場面では、自分の意見を発表したり、友達の意見と比べたりすることに加え、司会者の立場を経験させ、参加者の意見をまとめることもできるような機会を増やしていく。</p> |
| 書くこと | <p>平均正答率は、市の平均と比べて低い。</p> <p>○自分の考えを明確にして書く設問は、市の平均正答率よりやや高い。また、自分の考えとそれを支える理由や事例を明確にして書く設問は、市の平均正答率より高い。</p> <p>●段落の役割に関する設問では、市の平均正答率より低い。</p> | <p>・自分の考えとそれを支える理由や事例を明確にして文章を書くことはできているので、今後は伝えたいことを文章にする機会を増やしたり、二段落以上の構成で文章を書く方法を重点的に指導したりしていく。</p> <p>・各教科の授業で、調べた事を自分の言葉でまとめるなど、書く活動を多く取り入れ、構成や段落、自分の考えを明確にできるようにしていく。</p> |
| 読むこと | <p>平均正答率は、市の平均と比べて低い。</p> <p>○場面の様子について叙述を基に捉える設問では、市の平均正答率より高い。</p> <p>●登場人物の気持ちや変化を捉える設問や文章の要約を理解する設問では、市の平均正答率より低い。</p> | <p>・朝の読書の時間や家読の時間を活用して、読書活動を推進していき、文章を読み取る力を身に付けていく。</p> <p>・国語の時間に、文章の中のキーワードを考えさせながら要約がまとめられるよう支援したり、根拠となる事柄を文章の中から探したりと、読み取りの手順をしっかりと押さえた学習を推進する。</p> |

宇都宮市立陽南小学校 第4学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

| 分類 | 区分 | 本年度 | | |
|-----|----------|------|------|------|
| | | 本校 | 市 | 県 |
| 領域等 | 数と計算 | 50.3 | 57.4 | 56.9 |
| | 図形 | 53.3 | 58.7 | 60.1 |
| | 測定 | 39.7 | 48.1 | 45.7 |
| | データの活用 | 62.3 | 54.9 | 54.3 |
| 観点 | 知識・技能 | 53.2 | 56.6 | 56.2 |
| | 思考・判断・表現 | 45.4 | 54.5 | 53.8 |



★指導の工夫と改善

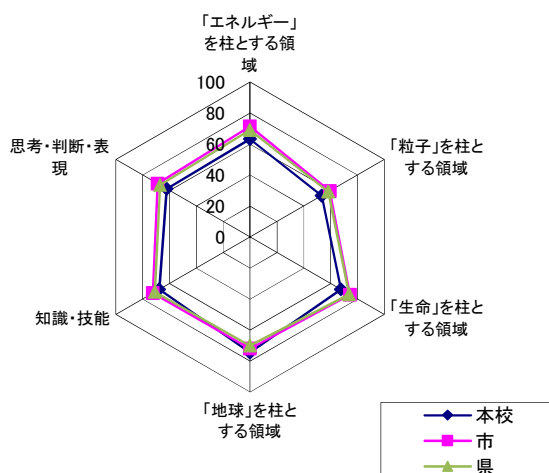
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

| 分類・区分 | 本年度の状況 | 今後の指導の重点 |
|--------|--|--|
| 数と計算 | <p>平均正答率は、市の平均に比べて低い。</p> <p>○分数を表す大きさや2けた×1けた=3けた設問では、市の平均を上回っており理解できている。</p> <p>●式の意味を正しく捉え言葉で説明したり、かけ算の性質を利用して立式したりすることに課題が見られる。</p> <p>●余りの意味について理解したり、余りを切り上げて処理する問題を理解したりすることに課題が見られる。</p> | <p>・今後も教科書や計算ドリルなどを活用して、繰り返し計算問題に取り組むことで、幅広い分野で基礎・基本の定着を図っていく。</p> <p>・文章問題のキーワードを確認させたり、何を求めているのか、線分図など利用できるものはあるかを考えたりできるように間違い直しや復習の時間を確保し、定着を図る。</p> |
| 図形 | <p>平均正答率は、市の平均に比べて低い。</p> <p>○球を平面で切った切り口の形は理解している。</p> <p>●円の性質を利用して正三角形を作図したり、二等辺三角形の性質を理解したりすることに課題が見られる。</p> | <p>・球のような立体を平面上に表す簡単な図を描かせて球の性質を考えさせるなど、視覚的にも理解できるように指導を継続していく。</p> <p>・定規やコンパスの性質や使い方について継続的に指導する。</p> <p>・図形の性質に着目し、操作活動を取り入れていくことで知識・技能の定着を図る。</p> |
| 測定 | <p>平均正答率は、市の平均に比べて低い。</p> <p>●地図から道のりを読み取り、2つの道のりの差を求めることに課題が見られる。</p> <p>●はかりの目盛りを読み取り、重さを答えたり、重さの大小を比較したりすることに課題が見られる。</p> | <p>・地図を用いて道のりや距離を説明する学習問題を積極的に取り入れて、実生活に結び付けていけるように指導していく。</p> <p>・実際に、はかりを使って具体物を図りながら目盛りを正しく読み取る練習をしたり、重さの単位の仕組みについて理解を深める復習を行ったりすることで、量感を養っていく。</p> |
| データの活用 | <p>平均正答率は、市の平均に比べて高い。</p> <p>○二次元の表の合計欄の意味を理解したり、表から傾向を読み取ったりすることができている。</p> | <p>・様々なデータの見方や考え方については、算数科だけでなく社会や理科等でも、グラフを読み取るときに着目する(単位や目盛り・変化)点を意識するなど、引き続き日頃から問題の意味や問われている内容を確認させるようにする。</p> |
| | | |

宇都宮市立陽南小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

| 分類 | 区分 | 本年度 | | |
|-----|----------------|------|------|------|
| | | 本校 | 市 | 県 |
| 領域等 | 「エネルギー」を柱とする領域 | 63.2 | 71.4 | 69.1 |
| | 「粒子」を柱とする領域 | 53.3 | 59.3 | 58.3 |
| | 「生命」を柱とする領域 | 67.7 | 74.5 | 73.8 |
| | 「地球」を柱とする領域 | 74.5 | 72.0 | 70.1 |
| 観点 | 知識・技能 | 67.6 | 72.5 | 70.9 |
| | 思考・判断・表現 | 62.1 | 68.8 | 67.1 |



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

| 分類・区分 | 本年度の状況 | 今後の指導の改善 |
|----------------|---|--|
| 「エネルギー」を柱とする領域 | <p>平均正答率は、市の平均に比べて低い。</p> <p>○輪ゴムの数と車が動いた距離の関係を選択する設問は、市の平均を上回っており理解できている。</p> <p>●鏡ではね返した日光の重なり方による温度のちがいや回路の組み合わせを選択する設問に課題が見られる。</p> <p>●「音の伝わり方の変化を推測する」設問に課題が見られる。</p> | <p>・実験や観察から得た知識を身の周りの現象に当てはめて考えることで、学習と生活の関連を図るようにする。</p> <p>・実験の内容を理解できていることから、今後も課題解決学習となるよう、事象を捉える、課題を見出す、課題に対する予想をする、実験方法を考えるといった活動を丁寧に行い、知識の定着を図る。</p> |
| 「粒子」を柱とする領域 | <p>平均正答率は、市の平均に比べて低い。</p> <p>●形と重さの関係や同じ体積でも材質の種類によって重さの違いを考える設問に課題が見られる。</p> <p>●はかりを用いて正しく調べる技能に課題が見られる。</p> | <p>・材質が同じで形の異なるものを手で持ったり、実際に重さを量ったりする学習を設定し、実感を伴った理解が図れるようにする。</p> <p>・はかりの使い方については、算数との関連を図りながら継続的に指導し、知識・技能の定着を図る。</p> |
| 「生命」を柱とする領域 | <p>平均正答率は、市の平均に比べて低い。</p> <p>●記録カードを比較し、差異点や共通点を見付ける設問に課題が見られる。</p> <p>●モンシロチョウの体のつくりや他の昆虫との育ち方の違いを捉え説明する設問に課題が見られる。</p> | <p>・いくつかの観察・実験結果を比較する際には、共通点や差異点などの視点を児童が意識できるように促し、どうしてそのように考えたかなど自分の考えや理由を文章で表現し、相手に分かりやすく伝えることができるようにする。</p> <p>・昆虫の体のつくりについては、生活の中で見つけた昆虫を例に出しながら、視覚的に理解できるように、掲示物や映像資料等を活用し、基礎・基本の定着を図っていく。</p> |
| 「地球」を柱とする領域 | <p>平均正答率は、市の平均に比べて高い。</p> <p>○方位磁針の正しい使い方や温度計の正しい使い方の設問では、市の平均を上回っており理解できている。</p> <p>●太陽と日陰の位置関係を考える設問や日なたと日陰の時間の変化による温度の変化をまとめた記録を選択する設問に課題が見られる。</p> | <p>・かげのできる向きと太陽の関係など、日々の生活体験と関連付けられる視点を多く提供し、日頃から科学的な現象に対する興味・関心が高まるよう支援する。</p> |

宇都宮市立陽南小学校 第4学年 児童質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

●「家で、学校の授業の予習をしている。」と回答した児童の肯定的割合は41.3%で市の平均より12ポイント以上低く、「家で、学校の授業の復習をしている。」と回答した児童の肯定的割合は50%で市の平均より9ポイント以上低い。家庭学習の中で復習だけでなく予習に取り組むことができるような課題を設定したり、自主学習として予習や復習に取り組む方法を示したりしながら、家庭学習の習慣化を図っていききたい。

○●「学校の宿題は、自分のためになっている。」と回答した児童の肯定的割合は100%であった。しかし、「学校の宿題の量はちょうどよいと思う。」の設問に対して「多い」と回答した児童の割合は39.1%で市の平均より20ポイント以上高い。学校の宿題は必要と感じている一方、宿題が多いと感じる児童が多いため、適切な宿題の量を検討しながら学習意欲の維持、向上を図っていききたい。

○「グループなどでの話合いに自ら進んで参加している。」と回答した児童の肯定的割合は84.8%で市の平均より6ポイント以上高い。友達との意見交換をしたり、互いに教え合ったりする活動に積極的な児童が多いため、今後も授業の中でグループ活動を積極的に取り入れ、学び合いの機会を確保していく。

●「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことはむずかしい。」と回答した児童の肯定的割合は54.4%で市の平均より10ポイント以上低い。グループ活動などで意見を伝え合うことができる児童は多いので、その考えを文章化する機会を確保し、書く力の向上を図りたい。

○「クラスは発言しやすい雰囲気である。」と回答した児童の肯定的割合は7ポイント以上高い。授業の中で意図的に言語活動を取り入れ、主体的に学ぶ児童の育成に努めた成果が表れていると考えられる。今後も話合いの場を積極的に設け、更に自分の考えを深めたり、広げたりできるようにしたい。

○「授業で分からないことがあると、先生に聞くことができる。」と回答した児童の肯定的割合は84.8%で市の平均より6ポイント以上高い。普段から児童との信頼関係構築を意識し、今後も相談しやすい雰囲気づくりに努めていきたい。

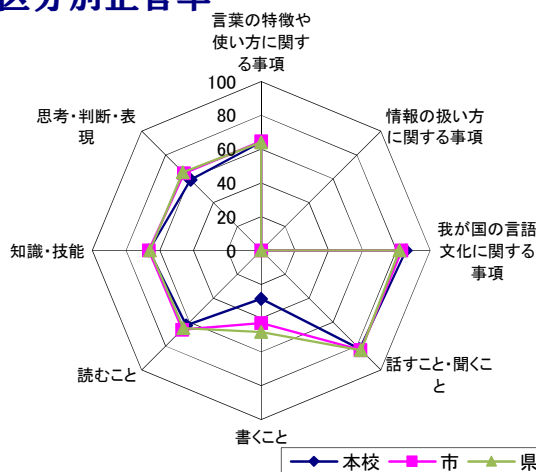
○「早ね、早起きを心がけている。」と回答した児童の肯定的割合は86.9%で市の平均より8ポイント以上高い。学校での指導だけでなく、家庭の協力もあり児童一人一人の健康意識も高まっている。今後も家庭と連携して、指導を継続していききたい。

○「家の人と学校のできごとについて話をしている。」と回答した児童の肯定的割合は93.5%で市の平均より6ポイント以上高い。また、「家の人は、あなたがほめてもらいたいことほめてくれる。」と回答した児童の肯定的割合は100%で市の平均より11ポイント以上高い。家庭でも話を安心して話を聞いてもらえたり、認めてもらえる環境があることで、話好きな児童や前向きに努力することができる児童が多いと考える。今後も家庭と連携しながら、児童のよさを学校生活や学習活動に活かしていききたい。

宇都宮市立陽南小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

| 分類 | 区分 | 本年度 | | |
|-----|----------------|------|------|------|
| | | 本校 | 市 | 県 |
| 領域等 | 言葉の特徴や使いに関する事項 | 64.2 | 64.7 | 64.1 |
| | 情報の扱いに関する事項 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| | 我が国の言語文化に関する事項 | 85.7 | 83.1 | 81.9 |
| | 話すこと・聞くこと | 82.5 | 83.3 | 83.4 |
| | 書くこと | 28.6 | 42.8 | 48.2 |
| | 読むこと | 62.7 | 66.1 | 65.1 |
| 観点 | 知識・技能 | 66.4 | 66.5 | 65.9 |
| | 思考・判断・表現 | 59.1 | 64.6 | 65.5 |



★指導の工夫と改善

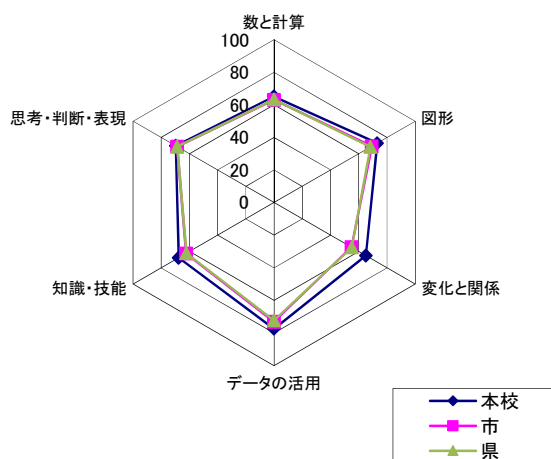
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

| 分類・区分 | 本年度の状況 | 今後の指導の重点 |
|----------------|--|--|
| 言葉の特徴や使いに関する事項 | <p>平均正答率は、市の平均よりやや低い。</p> <p>○連用修飾語に関する設問については、よくできている。</p> <p>●漢字の読み書きに関しては、設問により正答率にばらつきがあり、課題が見られる。</p> | <p>・家庭学習や朝の学習の時間などを活用して漢字練習やスキルの学習を行い、小テストで確認をしながら基礎的な漢字の読み書きの力を定着させていく。</p> <p>・主語、述語、修飾語を使って文を作るなど、繰り返し練習をすることで、基本的な文の構成要素を身に付けることができるようにする。</p> |
| 我が国の言語文化に関する事項 | <p>平均正答率は、市の平均より高い。</p> <p>○ことわざの意味を理解して、自分の表現に用いることができている。</p> | <p>・ことわざや慣用句など、学校生活で類似した場面が見られたときは引用して文章作りに挑戦させるなど、我が国の言語文化に触れる機会を作り、身に付くよう働きかけていく。</p> |
| 話すこと・聞くこと | <p>平均正答率は、市の平均と比べてやや低い。</p> <p>○話の中心を明確にしながら話し手の工夫を読み取ることができている。</p> <p>○話し手が伝えたいことの中心を捉えることができている。</p> <p>●話し合いの目的を確認し意見の共通点や相違点に着目しながら、自分の考えをまとめることに課題が見られる。</p> | <p>・自分の考えを整理して話す活動を積極的に取り入れたり、理由を挙げながら相手に伝えるように話す学習活動を取り入れたりしていく。</p> <p>・話し合いをする場面では、話し合いの目的を確認しながら自分の意見と友達の意見を比べたり、司会者の立場を経験しながら、参加者の意見をまとめたりすることができるような機会を増やしていく。</p> |
| 書くこと | <p>平均正答率は、市の平均と比べて低い。</p> <p>●指定された文字数や段落に沿って文章を書いたり、内容の中心を明確にしながら書いたりすることに課題が見られる。</p> | <p>・伝えたいことを文章にする機会を増やしたり、2段落以上の構成で文章を書く方法を重点的に指導したりしていく。</p> <p>・各教科の授業で、調べた事を自分の言葉でまとめるなど、書く活動を積極的に取り入れ、構成や段落・自分の考えを明確にできるようにしていく。</p> |
| 読むこと | <p>平均正答率は、市の平均と比べて低い。</p> <p>○登場人物の気持ちを具体的に想像することができている。</p> <p>●説明文の叙述を基に文章の内容を捉えたり、文章を読んで理解したことについて、考えを持ったりすることに課題が見られる。</p> | <p>・朝の読書の時間や家読の時間を活用して、読書活動を推進していき、文章を読み取る力を身に付けていく。</p> <p>・国語の時間において、物語文では情景と心情の読み取りを丁寧な扱ったり、説明文では段落のつながりや構成を確認したりして、文章の中のキーワードを考えさせながら要約がまとめられるような学習を継続する。</p> |

宇都宮市立陽南小学校 第5学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

| 分類 | 区分 | 本年度 | | |
|-----|----------|------|------|------|
| | | 本校 | 市 | 県 |
| 領域等 | 数と計算 | 65.1 | 63.0 | 63.3 |
| | 図形 | 73.0 | 69.2 | 68.3 |
| | 変化と関係 | 65.1 | 54.8 | 55.0 |
| | データの活用 | 77.4 | 73.1 | 72.3 |
| 観点 | 知識・技能 | 67.7 | 62.3 | 62.1 |
| | 思考・判断・表現 | 69.7 | 68.7 | 68.7 |



★指導の工夫と改善

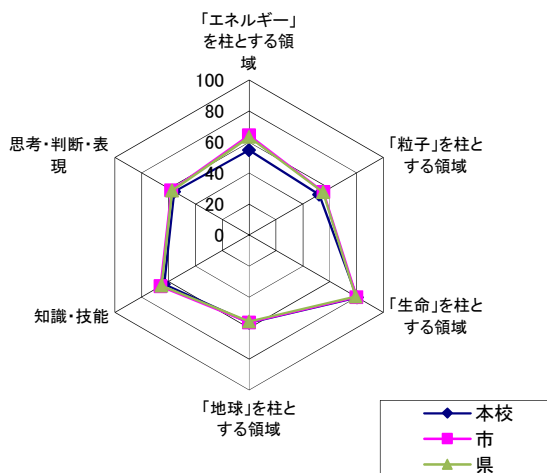
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

| 分類・区分 | 本年度の状況 | 今後の指導の重点 |
|--------|---|---|
| 数と計算 | <p>平均正答率は、市の平均と比べて高い。</p> <p>○帯分数の意味を理解し、もとにする分数のいくつ分かで大きさを考える設問や整数と小数の計算は、よくできている。</p> <p>●計算のきまりを理解し、間違いを説明する問題は課題が見られる。</p> | <p>・教科書や計算スキルなどを活用して、繰り返し計算問題に取り組むことで、幅広い分野で基礎・基本の定着を図る。</p> <p>・具体物を使ったり図に示したりすることで、視覚的に理解できるような指導を継続していく。</p> |
| 図形 | <p>平均正答率は、市の平均と比べて高い。</p> <p>○三角定規の角の大きさを理解したり、三角定規の角の組み合わせでできた角の大きさを求めたりする設問はよくできている。</p> <p>●物の位置の表し方を理解し、もとにする位置を考える問題は課題が見られる。</p> | <p>・引き続き練習問題に取り組み、三角定規の角の組合せでできる角の大きさについて、更に理解を深められるように指導を継続していく。</p> <p>・方眼紙上で、縦と横のマスを正確に数えたり、東西南北と上下左右を正しく数えたりできるように、繰り返し練習問題に取り組み、知識・技能の定着を図る。</p> |
| 変化と関係 | <p>平均正答率は、市の平均と比べて高い。</p> <p>○伴って変わる2つの数量の関係を表から読み取ることや、割合を使った長さの求め方を説明することはよくできている。</p> <p>●無回答の児童が一定数見られたことが課題である。</p> | <p>・伴って変わる2つの数量の関係を読み取り、関係を式に表す活動については、様々な表を使って練習するなど、習熟を図っていく。</p> <p>・割合を使った長さの求め方を説明する課題では、無回答の児童が一定数見られたので、数量関係を言葉で説明する活動を繰り返し行っていくことで、言葉で説明することに慣れさせる。</p> |
| データの活用 | <p>平均正答率は、市の平均と比べて高い。</p> <p>○折れ線グラフの傾きから変わり方を読み取ることや折れ線グラフと棒グラフの複合グラフから傾向を読み取ることがよくできている。</p> <p>○二次元の表の意味を理解しているかどうか見る課題がよくできている。</p> <p>●表の空欄の意味を説明する課題で無回答率が高い。</p> | <p>・折れ線グラフや棒グラフで表された様々なデータを見て、そこから読み取れることを考える活動を続けていくことにより、グラフを読み取る能力を更に高めていく。</p> <p>・二次元の表がどのようなことを表しているのか考察する活動を繰り返し行うことで表を読み取る力を高める。また、読み取ったことを言葉で説明する学習を意図的に行うことで、表から読み取ったことを言葉で表現することができるようにする。</p> |
| | | |

宇都宮市立陽南小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

| 分類 | 区分 | 本年度 | | |
|-----|----------------|------|------|------|
| | | 本校 | 市 | 県 |
| 領域等 | 「エネルギー」を柱とする領域 | 54.8 | 64.3 | 63.2 |
| | 「粒子」を柱とする領域 | 52.2 | 55.4 | 55.1 |
| | 「生命」を柱とする領域 | 80.4 | 80.1 | 79.3 |
| | 「地球」を柱とする領域 | 56.6 | 56.4 | 55.8 |
| 観点 | 知識・技能 | 63.3 | 66.0 | 65.3 |
| | 思考・判断・表現 | 55.9 | 57.9 | 57.4 |



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

| 分類・区分 | 本年度の状況 | 今後の指導の改善 |
|----------------|--|---|
| 「エネルギー」を柱とする領域 | <p>平均正答率は、市の平均より低い。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●乾電池のつなぎ方の名称や電流の強さの特徴を理解しているかを問う設問に課題が見られる。 ●簡易検流計の針のふれる向きが電流の向き、針のふれ具合が電流の大きさを表すことを理解しているかを問う設問について課題が見られる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・問題の必要項目の一部分のみ理解しているなど、知識・技能の定着に課題が見られる。既習事項についても繰り返し問題に取り組みさせることで、基本的な知識・技能の確実な定着を図っていく。 ・視覚的に理解できるよう、掲示物や映像資料などを活用し、基礎・基本の定着を図っていく。 |
| 「粒子」を柱とする領域 | <p>平均正答率は、市の平均より低い。</p> <p>○水のあたたまり方について、実験の結果を解釈し、考察できるかどうかをみる設問はできている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●湯気について理解しているかどうかをみる設問について、課題が見られる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・記述式の問題に課題が見られるため、体験的な活動を通して理解したことを、自分の言葉で表現する力を育てていく必要がある。今後も、体験的な活動を取り入れ、理解を深めるとともに、キーワードを使って自分なりに分かったことをまとめる学習を継続的に行っていく。 ・基礎・基本を丁寧に指導していくとともに、実生活と関連付けた授業を展開できるよう、指導の改善を図っていく。 |
| 「生命」を柱とする領域 | <p>平均正答率は、市の平均とほぼ同じである。</p> <p>○人の腕と鳥の翼の骨を観察した結果から差異点を記述することがよくできている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●骨のはたらきについて答えることについて課題が見られた。 ●動物の越冬について調べた結果を基に考察することについて課題が見られた。 | <ul style="list-style-type: none"> ・基礎的な問題については正答率が高いため、引き続き基礎・基本を丁寧に指導し、さらに正答率が上がるようにする。 ・骨のはたらきや動物の1年間の様子について理解を深めるため、教科書の写真資料だけでなく、具体物の観察を充実させたり、映像資料等を積極的に活用したりする。 |
| 「地球」を柱とする領域 | <p>平均正答率は、市の平均とほぼ同じである。</p> <p>○水が水蒸気になって空気中に出ていく現象の名前を答えることについてよくできている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●空気中の水蒸気が冷やされると液体の水になることを問う設問に課題が見られた。 ●実験結果から水たまりのできにくい地面を選び、その理由を記述する設問では、無回答率が高く、課題が見られた。 | <ul style="list-style-type: none"> ・予想、実験、結果、考察の手順を丁寧にいき、事象とその理由のつながりを意識した学習を継続していく。 ・記述式の問題に課題が見られるため、普段の授業の中で実験結果を自分の言葉でまとめるなど、書く学習にも力を入れていく。 ・日常生活の中から、空気が冷える体験活動を取り上げ、水蒸気が水に変化する理解への定着を図る。 |

宇都宮市立陽南小学校 第5学年 児童質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で、学校やじゅくの決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている。」の肯定割合は62.9%で市を1.5ポイント上回った。ドリル学習や1人1台端末を活用した宿題を出してきた成果であると考えられる。今後も、児童の実態に応じた宿題を提供していきたい。

○「家で勉強するときに、だいたい同じ時こくに取り組むようにしている。」の肯定割合は75.8%で市を14.5ポイント上回った。保護者にも協力を呼びかけ、なぜ家庭学習をするのか、どんな力が身に付くのかなどを、児童に分かりやすく伝えながら家庭学習に取り組めるよう指導してきた成果が表れている。今後も、家庭学習の重要性について保護者へ協力を呼びかけながら、決まった時間に学習に取り組むことを習慣化できるような声掛けを継続していきたい。

○「クラスは発言しやすいふん囲気である」の肯定割合は91.9%で市を8.2ポイント上回った。意欲的に発言する児童が多いので、今後も発表する機会を確保した授業を展開できるよう努めていく。

○「毎日同じくらいの時こくに寝ている。」の肯定割合は80.7%で市を2.7ポイント、「早ね早おきを心がけている。」の肯定割合は88.7%で市を12.6ポイント上回った。規則正しい生活について継続的に指導してきた成果が表れている。今後も、児童が自らの健康について考えながら生活していけるよう、指導の充実を図りたい。

○●「学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習じゅくや家庭教師もふくむ)」の設問で1時間以上勉強をしている児童の割合は56.5%だった。市の平均より6.4ポイント高い結果ではあるが、平日の学習時間を維持しつつ、休みの日の学習時間の向上が図れるよう指導していく。

●家庭学習については、「家で、学校の授業の予習をしている」の肯定割合は45.2%で市を9.7ポイント、「家で、学校の授業の復習をしている」の肯定割合は48.4%で市を13.7ポイント下回った。宿題は多くの児童が忘れずに取り組んでいるが、授業の予習・復習など自主学習への取組が十分ではない。家庭学習に意欲的に取り組んでいる児童のノートを紹介するなどして、宿題以外の家庭学習が充実するよう、啓発していく。

宇都宮市立陽南小学校 (第4・5学年共通) 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

| 重点的な取組 | 取組の具体的な内容 | 取組に関わる調査結果 |
|-------------|--|---|
| 基礎・基本の確実な定着 | <ul style="list-style-type: none"> ・少人数、習熟度別など、単元や活動に応じて、ITを効果的に活用した個に応じた指導を行う。 ・朝の学習の時間にAI型学習ドリルの活用も含めた国語・算数の学習を行ったり、授業において漢字のミニテストや計算練習等を繰り返し行ったりするなど、学習内容の確実な定着を図る。 | <ul style="list-style-type: none"> ・5年算数においては、すべての領域で市の平均を上回っているが、その他の教科・領域については、市の平均を下回る、若しくは市の平均と同等の結果となった。特に、国語の「書くこと」においては、様々な課題が見られる。 |

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

| 調査結果等に見られた課題 | 重点的な取組 | 取組の具体的な内容 |
|---|----------------------------|---|
| <p>話し合い活動において、自分と友達との考えの違いを意識してまとめたり、伝え合ったりすることについて、肯定的に捉えている児童が多いが、文章を書くことについて苦手意識を感じている児童が多い。</p> | <p>児童の自己表現力を高める言語活動の工夫</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを書く学習を意図的に取り入れ、課題に合った表現方法を発達段階に応じて身に付けられるように指導していく。また、その基本となる漢字や言葉の正しい表記や文法なども併せて指導する。 ・少人数での話し合い活動を通して、自分の考えを交流することにより、考えに根拠をもてるようにしたり、全体で発表する際の抵抗を減らしたりして、自信をもって意見を発表できるようにする。 |